

vol.1

急な子どものお迎え、まずは母親？

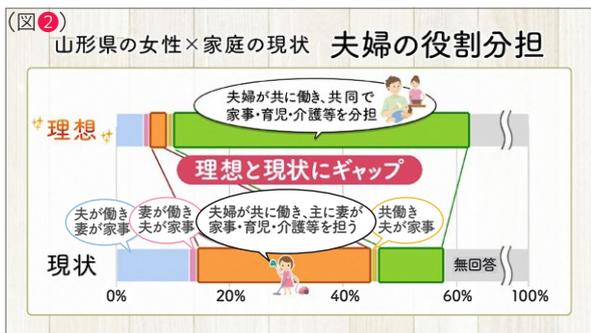
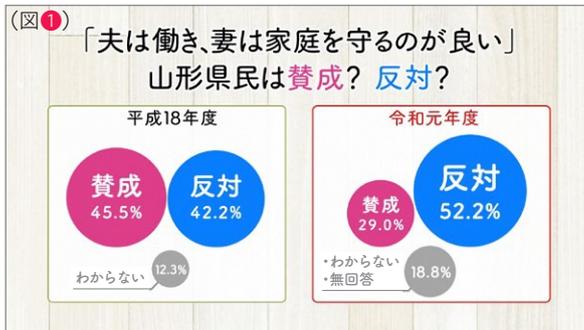


家事・育児・介護は女性の役割？

以前は、「男性は仕事を中心、女性は家庭が中心」といった男女の役割分担意識が当然だったかもしれませんが、しかし、共働き世帯が増え、夫も妻も外で働きながら、家庭責任を共に担うことが当たり前になった現代においては、「家事や育児は女性の役割」といった男女の役割分担を固定化した考え方は、働く女性にストレスやプレッシャーを与え、自分らしい仕事と生活の調和を図ることを困難にする要因となります。

山形県内の意識と現状は？

山形県が令和元年に実施した調査では、「夫は働き、妻は家庭を守るのが良い」という性別による固定的な役割分担意識については、「反対」が5割を超え、「賛成」が3割を下回っており、過去の調査と比較しても固定的な役割分担意識は薄れてきていることが推察されます(図①)。



しかし…

夫婦の役割分担については、「理想」は「夫婦が共に働き、共同で家事・育児・介護などを分担する」が最も高いものの、「現状」は「夫婦が共に働き、主に妻が家事・育児・介護などを担う」が最も高くなっており、「理想」と「現状」で差が生じていることがうかがえます(図②)。

図1,2出典:「令和元年度ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」(山形県)

アンコンシャス・バイアスとは

「急な子どものお迎えはまず母親が行くべき」といった無意識の思い込みを「アンコンシャス・バイアス」と言います。アンコンシャス・バイアスは、人が無意識に持つ偏見や思い込みです。過去の経験によって、気づかずに身につけたもので、意図せず、行動や意思決定に影響を与えます。誰にでもあるものですが、時に自己基準で決めつけてしまうことで、相手を傷つけたり、可能性を狭めてしまう場合もあります。

ほかにありませんか？ こんなアンコンシャス・バイアス

当てはまる項目をチェックしてみてください。

- 子どもが小さいうちは母親が面倒を見るべきである
- 家事・育児・介護は女性の方が望ましい
- 共働きでも男性は仕事を優先するべきだ
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ

表面の事例でも、父親の上司は「急な子どものお迎えは、まずは母親が行くべき」という思い込みを見直し、夫婦が共に働き、共同で子育てを分担できるようサポートすることが大切です。



誰もがその個性や能力を十分に発揮し活力ある社会を維持するためにも、まずは職場や家庭で、「男性が担うべき、女性が担うべき」といった時代に合わなくなったアンコンシャス・バイアスが無いか話し合うことで、一人一人の中にある無意識の思い込みに気づきましょう。そして、その思い込みが誰かの違和感や生きづらさにつながっている場合は、改善できることがないか、考えてみましょう。

「男性だから」「女性だから」といった役割分担意識を解消し、男女共に仕事と家庭の調和がとれた暮らし方ができる社会を実現しましょう。

動画はこちら

